

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

## ②施設・事業所情報

名称：善行あさぎ台保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：大坪 雅代	定員（利用人数）：48名（利用者48名）
所在地：〒251-0871 藤沢市善行3-14-7	
TEL：0466-47-9104	
ホームページ：http://www.tomoni.or.jp	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2016年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福社会	
職員数	常勤職員：10名 非常勤職員：7名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士 事務員 用務員
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6 （設備等）トイレ：3 調理室：1 事務室：1 園庭：あり

## ③理念・基本方針

## &lt;社会福祉法人県央福社会保育園の基本理念&gt;

- 1、すべての保育を必要とする子どもの環境整備に努めます。
- 2、子どもの発達や成長に沿った支援や保育を行います。
- 3、時代の変化にともなうニーズに即した子育て支援と保育をプロデュースします。

## &lt;保育方針&gt;

- ・一人ひとりの子どもが持つ力を信頼し自らが工夫することができる「心、知性、身体」を育てます。
- ・安全で安心できる人的、物的環境を整えます。
- ・子どもが主体的に活動できる環境をつくり、心身ともにバランスのとれた発達を促します。
- ・保護者や地域との連携を密にして、共に育つ保育園運営を目指します。
- ・保護者との信頼関係を深め、子育ての協働に努めます。
- ・インクルーシブ保育を行います。
- ・社会の変化に応じた研修や学習会等を設定し、専門性の高い保育を目指します。

## &lt;保育目標&gt;

- ・健やかな体を育てます。
- ・人と関わり、人を大切にする心を育てます。
- ・自己を表現し情操豊かな心を育てます。
- ・家庭、地域との連携を大切にします。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・少人数の保育園ならではの良さを生かし、ゆったりとした雰囲気の中で、保育士と子どもたちがスキンシップをとり、人と関わり合うことの心地良さや自我を受け止めてもらい、認めてもらっている安心感を感じながら共に育ちあう環境作りを大切にしています。人と関わり合うことで、様々な感情を抱き、自主性や社会性が身についていくよう、「子どもの心の育ち」を第一に考え、日々保育を行っています。
- ・保育室はコーナー保育を取り入れ、子どもたちが興味のある遊びを自分で選び、じっくりと遊びこめるような環境作りを心がけています。遊びだけでなく、さまざまな場面で自分で考え、気づき、行動に移せるよう関わりを心がけ、自主性を育てていきます。
- ・障がい者施設である「モンド湘南藤沢」との複合施設ということで、日頃から廊下等では挨拶を交わしたり、発表会を合同で開催し、利用者さんとの交流の機会を設けています。（コロナ禍前）また、4、5歳児は、年度末に卒園記念として、パンづくりを体験させてもらい、利用者さんと共にパンを捏ねたり工場内を見学させてもらったりしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年4月27日（契約日） ～ 令和3年10月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（前回：2018年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

##### 1)子ども第一の保育に取り組む姿勢

子どもを第一に考える保育のために、小規模園（定員48名）の特性を生かし、全職員がコミュニケーション良く子どもの家庭の状況や様子、対応方法など情報共有して対応しています。また、園長は、保育に正解はなく、「子どもの成長・発達にとって何が大切か」を考えており、園独自に作成をした「子どもの心の育ち」「保育を行う上で大切にしてほしいこと」で園の職員としての心構えをより具体的に示し、行動につながるようにしています。そのためには業務の実効性を高めることも必要と考え、主任とともに、事務時間の改善、休憩のとり方など職員の働きやすい環境づくりにも取り組んでいるほか、必要な指導を続けています。

##### 2)地域で育つ子どもたち

園は、障がい者の通所事業所（パンの製造・販売）との複合施設のため、日々、子どもたちと利用者のさり気ない交流があります。近隣の人も園への理解が深く、畑のじゃが芋を掘らせてくれたり、七夕の笹を提供してくれたりと交流を深めています。また、子どもたちは駅前のファストフード店、消防署、交番に日頃の感謝の気持ちを手紙にして届けています。近隣の駄菓子屋、スーパーマーケットのほか、JAの地元野菜大型即売所など地域の社会資源を積極的に利用し、生活の幅を広げています。現在はコロナ禍のため中止となっていますが、地域子育て支援事業（一緒に遊ぼう・夏まつりごっこ・人形劇など）を通じた地域交流も盛んです。

##### 3)保育環境作り

保育室にコーナーをつくり、子どもが身近な物や遊具に興味を持ち、触ったり、試したり、工夫したりして色々なものに興味を持って自ら関わられるようになっています。低年

年齢は安心できる職員のそばでゆっくりできるよう、幼児は友だちと関われる環境にも配慮しています。廊下の一角を利用し、あさぎ台文庫を設置しています。小さなテーブルと椅子も置かれ、子どもが好きな本を選んで読める環境を設定しています。職員の声も大切な環境と考え、園内だけでなく、戸外活動時にも大きさ、トーンなど注意を払っています。

#### ◇改善を求められる点

##### 1)研修の充実

運営法人内の計画的な研修計画があり、該当する職員が受講できるようになっています。しかし、コロナ禍の影響により外部研修受講が難しくなっていることや職員のレベルにばらつきがあるため、保育の質の向上に必要と思われる園内研修開催についても検討が必要と園長は考えています。今後の取組が期待されます。

##### 2)ホームページの更新

園のホームページがあり、理念・方針、提供するサービスの内容等を公開していますが、一部園の現状とそぐわない情報があります。保護者専用のアプリケーション等でのサポートが進む中で、より広く情報提供が行えるホームページの適度な更新が期待されます。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、2度目の第三者評価の受審でした。

「共通評価」「内容評価」の自己評価をするに当たり、様々な書類や資料を見直すことで、保育園としてはもちろん、施設長として、保育士として必要な知識や心構え、また責任について振り返ることができました。特に保育内容では、日頃から職員に伝え続けてきている「子どもの心の育ち」や「保育を行う上で大切にしてほしいこと」を通して、子どもたちの「今」をしっかりと受け止め、職員全体で保育を行っていくことの大切さを改めて強く感じました。今回の受審結果を基に、職員間で振り返りと話し合いを行い、保護者や子どもたちにとってより良い保育の提供ができるように努力をしていきたいと思えます。

改善が求められる点では、ホームページの更新がありました。掲載内容を検討し、更新を行いたいと思えます。

研修に関しては、コロナ禍で研修が減少していることもありましたが、zoom等での開催も多くあるので、積極的に参加をしていき、保育の質の向上を目指していきたいと思えます。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり